

安全かつ効率的な国際物流の実現のための施策パッケージ概要

現状と課題

- ▶ 米国同時多発テロ以降の国際的な動向に的確に対応した**物流セキュリティの強化**が求められている。
- ▶ 一方、物流セキュリティ強化によって、円滑な物流を阻害することなく、**物流効率化を一層進めることも重要**である。

具体的な施策

1 物流セキュリティ等の強化

- ・ 物流セキュリティ関連情報の収集体制の整備
- ・ 船舶、港湾その他物流施設の保安措置の強化
- ・ 事業者別のコンプライアンス・ガイドラインの策定
- ・ 対米輸出円滑化に関するガイドラインの策定
- ・ 海上コンテナ陸上輸送に関する安全対策ガイドラインの策定

2 国際物流の効率化

- ・ スーパー中樞港湾プロジェクト等の推進
- ・ 3PL事業の支援等によるロジスティクス・ハブ機能の強化
- ・ 内航フィーダー輸送など国内ネットワークとの連携強化
- ・ FAL条約の締結とBPRの推進
- ・ 業務・システム最適化計画の策定

3 ITの活用

- ・ 総合的な電子化促進支援策の検討
- ・ 港湾物流情報プラットフォームの実現
- ・ ITを活用したコンテナ管理体制の確立に向けた実証実験の実施
- ・ 港湾施設の出入管理の徹底のためのノンストップゲートシステムの構築

4 国際社会との協調

- ・ 交通セキュリティ大臣会合の開催
- ・ IMO、WCO、UN/CEFACT等を通じた国際協調

政策目標・評価指標等

【輸出】

対米輸出の際のコンテナヤードへの搬入
締切時刻を、一定の条件を備えたコンテナ
については、2006年までに入港**3日前から**
2日前に短縮

【輸入】

輸入者が迅速な引取を求めるコンテナ貨物
については、十分なセキュリティ対策を実施
した場合においても、入港からコンテナヤ
ードを出ることが可能となるまでの時間を2007
年までに**24時間以下**に短縮

チェック&レビュー

施策の推進体制

推進協議会の設置(2005年夏を目処に発足)

- ・ 進捗状況の点検・評価
- ・ 必要に応じ施策の見直し
- ・ 実務者による具体策の検討